

ラオスの こども通信

57号
2013年4月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 子どもたち、先生、周辺が変わるスピード ▶ p.1
- はじめる・つながる・つくりだす [2012.12-2013.3]
ラオス発 ▶ p.2 日本発 ▶ p.3
- みんなでボランティア ▶ p.4
- 「勉強会」報告 ▶ p.4
- メコンのほとり「食」 ▶ p.4



子どもたち、先生、周辺が変わるスピード

小学4年生に聞きました

2013年3月、当会が図書活動を支援するカムアン県の学校を巡回視察*し、県都タークから40km南下した小学校で4年生にインタビューをしました。

—学校では何して遊ぶの？

ブンローム：(女の子にこう答えなさいと囁かれ)本読むのが好き。

—ふーん、本が好きなの。どんなおはなしの本？

ブンローム：ラオス語の本。

—それはそうね。色んなおはなしがあるでしょ？

ソムサヌック：算数の本が好き。

—教科書か。好きな遊び、スポーツでも何でも言って。

キン、ハック：家の近所でサッカーするのが好き。

—学校ではしないの？男子がやらせてくれないの？

キン：学校では勉強するの。

—じゃあ、もう一度男の子に聞こうかな。

ブンローム：学校でサッカーするのが好き！



左からソムサヌック(8歳)、ブンローム(9歳)、シワナー(9歳)、キン(8歳)、ハック(9歳)。7人きょうだいの末っ子。長女に1歳の子がいるので既に叔母さん)。ラオスは6歳で小学校入学ですが、学齢前の5歳あるいは7歳を過ぎて入学する例は珍しくありません。

—大きくなったら何になりたい？

シワナー：看護師。

キン：看護師になって、人を助けたい。

ハック：わたしたちに知識を教えてくれる先生になりたい。

—幼稚園の先生？小学校の？

ハック：勉強がよくできるようになるように幼稚園で教えたい。

—幼稚園の子はきかん坊だよ。

ハック：辛抱強くきちんと教える。

—あなたは、きかん坊じゃないの？

ハック：ちがう。辛抱強いよ。

—えらいね。男の子は？

ソムサヌック、ブンローム：軍人。

—村を守るの？村の外に行くの？

ソムサヌック：外に行きたい。

—看護師さんになったら、村で働く？外に行く？

キン：(ちょっと考えて)外に行く。

—お父さんとお母さんが恋しくならない？

キン：恋しくなったら里帰る。

子どもたちからは「昨日何食べた？」などと聞かれ、インタビューを終えました。

再び私をみつけた女の子たち。

「アオ プア レオボー(もう夫はもらった)?」

彼女たちが家庭を持つのは日本の女の子ほど遠い先ではなく、早く大人になるのでしょう。彼女たちのこの質問が、田舎の女の子が描く夢であり現実の姿を雄弁に語っていたようでした。

小学校のまわりでは大きな変化が起きています。

(秋元波/東京事務所)

*支援：外務省 日本NGO連携無償資金協力「小中学校における図書活用強化事業(第2期)」

ラオス 発

先生が喜びを実感できる図書活動に

子どもたちにインタビューをした学校に向かう水田地帯が広がる中、カムアン県教育局職員と当会スタッフを乗せた車は、赤土をならす舗装工事車両の真後ろを走り続けました。

「農村の地価が上がっていて、今が売り時」と、教育局職員は言い、話題はひたすら車や土地の値段、違法木材伐採についてでした。学校の近隣には鉱物採掘を行う中国企業が進出。農家は移住してきた中国人の好む野菜を栽培するようになりました。

「まわりで車を持っていないのは自分だけ。お金がないから仕方ない」と中年の教育局職員はぼやきます。

学校で迎えてくれたのは、孫3人の子守りをしながら授業をする先生、入院から復帰したばかりという校長先生でした。通常の授業に加えて図書活動を行うことに苦戦し、一日一日を生き、家族を養うことで手一杯の様子がうかがえました。村周辺に押し寄せる大きな変化とは大きくかけ離れているように見えました。

オートバイを自動車に買い換えるのに比べたら、教育のもたらす変化は地味で時間がかかり、先生のモチベーションを保つのは容易ではありません。何よりも先生が楽しめるものであってこそ、子どもたちに提供し続けることができる。そんな工夫をしていくことの必要をこれまで以上に強く感じました。(秋元 波/東京事務所)

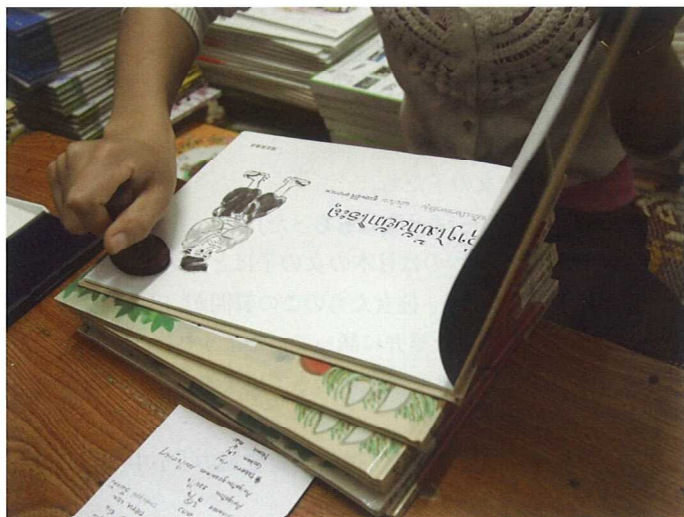
ラオス語絵本プロジェクト

貼った絵本が届いて、子どもたちが開くまで

日本からラオスの子どもたちを支援するプロジェクトの一つ、「ラオス語絵本プロジェクト」。これは日本語の絵本にラオス語翻訳シートを貼りつけ、ラオスへ直接送る、という活動です。

その魅力は何といっても、リサイクルや募金のように形を変えずに、私たちの手からラオスの子どもたちの手に届くことです。

どういうふうに届くのだろう。そんな疑問を持つ方もいらっしゃる



日本から絵本が届き、ALCスタンプを押印

るのではないのでしょうか。ラオスのこども東京事務所とラオス事務所とでインターン活動をしなが、貼るところから子どもたちが絵本を開くところまでを目撃しました。その報告をします。

みなさんがシートを貼って送った絵本は、船便で日本を出て、3〜4か月ほどしてラオス事務所に届きます。

届いた絵本は、今、ラオス人スタッフが送っていただいた方の氏名を名簿に書き込み、本の種類・題名ごとに分類して、倉庫に保管します。ラオスで出版したラオス語の絵本といっしょに、どこの県の何校に本を配付するという年間計画に基づいて、届け先を決めます。

日本の図書館の絵本と同様に、管理する学校・施設のスタンプを押し、最後のページに図書カードを入れるポケットを貼り、表紙に絵本の登録番号を貼り付けます。

ラオス事務所の図書室と各地の小学校へ

ラオス事務所の図書室の棚には日本からの絵本が並んでいます。子どもたちは昼休みと放課後、そして学校が休みの土曜日にやってきて、思い思いに好きな絵本を手にとって楽しんでいました。絵本を使って言葉の発音の練習をしている、日本人とラオス人の両親を持つ子どもの姿も見られました。

スタッフは、1年の半分ほどはラオス各地の学校に図書室開設と既設図書室のフォローの出張に出ます。日本からの絵本も車に積み込んで、ふだん本に触れる機会の少ない子どものもとへ届けていました。

校印を押し、先生方と棚作りや貸し出しカードの準備をします。完成した図書室では、図書室運営の方法や絵本の活用方法や扱い方などをALCのスタッフ、国立図書館職員が先生に話していました。

開設式から教室への移動中も本を離さずに、嬉しそうに抱えている姿や、図書室の開設準備中から、沢山の本に目を輝かせている姿を見て、日本からの支援の大きさを感じました。

新しい本が届くと、図書室を運営する先生方も意欲倍増とのこと。現在、みなさんからラオスに届く本は年間700〜800冊。さらに応援をお願いします。(塚本 有布子/インターン)



「てぶくろ」を読むラオスの小学生

子どもが主役、ブックフェスティバル

3月1、2日、ヴィエンチャン子ども教育開発センター(CEC)で当会との共催によるブックフェスティバルが開催されました。子どもたちのラオスの民族舞踊の発表や紙芝居コンテスト、絵本作りなどが催されていました。紙芝居コンテストでは、子どもたちが好きな紙芝居を客席の友だちに向けて工夫して演じます。面白い部分になると、客席側から笑い声が聞こえます。小学校の低学年ばかりでなく高学年の男の子までお話を真剣に聞いている姿が印象的でした。(山田 萌/インターン)



子どもたちが楽しみ、学生ボランティアが活躍します

日本 発

<出版プロジェクト>

● 沖電気工業株式会社「OKI 愛の100円募金」のご支援

短編集『サンシンサイとiPhone』

部数: 3,000冊

3月、短編小説コンテスト入賞作品集『サンシンサイとiPhone』を出版しました。

コンテストは2011年、「想像力は夢を叶える」をモットーにラオスの出版社ドゥケーとフランスのNGO、L'EquiLivreが開催したものです。約380作品の応募があった中、200以上が当会の支援する学校図書室(愛称:ハックアーン。愛読の意)の生徒や先生によるもの。入賞した31人中21人がハックアーン利用者でした。

入賞者向けに、作家を講師に編集や推敲を行うセミナーを開催し、入賞42作品の内10編を集めて主催者が2月に出版。さらに「OKI 愛の100円募金」の支援が得られたことで、17編からなる作品集『サンシンサイとiPhone』が出版できました。

書名に選ばれたのは、当会ラオス事務所ボランティアで韓国人留学生(当時)のジュン・ヒヤン・ノさんの作品タイトルです。今どきの高校生の学校生活で起きたアクシデントに、ラオスの古典物語サンシンサイの主人公が登場します。

ハックアーン利用者から作家が誕生し、その作品を出版できたことは、新人作家にとってはもちろん、ラオスで長く読書推進活動が続けてきた当会にも大きな励みです。

ສິນສິນ ຄົບ ໂອໂຟນ



『サンシンサイとiPhone』

大阪で活動報告!

3月3日、大阪・池田市ボランティアセンターで学生ボランティアプロジェクトのみなさんに活動報告をしました。2009年から当会の「ラオス語絵本プロジェクト」に参加し、初代の学生が社会人となった今も高校生から大学院生までがラオスに絵本を送る活動を続けていて、今後の活動についても意見交換しました。東京を拠点とする当会にとって、大阪で熱心に取り組む学生に出会うことができ、心強く感じました。



学生ボランティアプロジェクトの活動

スタディツアー2012

絵本作家長野ヒデ子さんと行くラオス ～活動視察と文学交流・織物の旅～

12月15日～22日、スタディツアーが行われました。一行は11名。同行の方々や訪問先でお世話になった皆様方のおかげで、とても楽しい充実したツアーとなりました。豊かな自然、子どもたちの素晴らしい笑顔とお洒落な建築、美味しいラオス料理、素敵な織物、活気あふれる市場、声調のある心地よい響きのラオス語など魅力がいっぱいです。政治体制が違っても日本と共通する問題を抱えていることもわかりました。(飯島京子さん/参加者)



訪問先の子どもたちが紙芝居を演じて歓迎

みんなでボランティア

現場を脳裏に焼き付けた

山田 萌さん (インターン)

2012年3月から東京事務所でインターンをしています。私の仕事はJICAなどのホームページにイベント情報の書き込みや絵本の翻訳シートを印刷するなどです。自分がしていることは小さなことかもしれませんが、大切なことだと思って取り組んでいます。事務所の方々が休憩時間にラオスのこどもの現状について話してくれるので、NGO運営の大変さが分かりました。



2013年2月に初めてラオスに行きました。聞いていた通り、食べ物も美味しいし、沢山見どころもあって素敵な場所でした。ラオス事務所の図書室には、私たちがラオス語の翻訳シートを貼った絵本が沢山あり、読んでくれていると思うと嬉しかったです。午後になると次々と子どもたちが入ってきて、好きな本を選んで友達と読んでいた姿が印象的でした。自分の目で現場を見て脳裏に焼き付けたことは、これからも会に関わっていく原動力になりました。

「勉強会」報告

第14回「手軽にできて本格派。おはなしも美味しいラオス料理教室」(2月16日 池上文化センター)

講師: チェンタソン・インタヴォン(ラオスのこども共同代表)

「ラオスカレー」「ココナッツと挽肉入りのタケノコ炒め」「卵入りココナッツゼリー」を作りました。できあがった料理を食べながら、おはなしタイムになりました。

ラオス料理とタイ料理の違いについて。ラオスの食堂で麺を頼むと、たくさんのハーブが出てきます。これはタイともベトナムともちがいが、ラオス人は野菜好きと言われています。

魚を発酵させた塩辛のような「パデーク」を調味料のように多用するのもラオス料理の特徴。ラオスの食生活を支え、昔はどここの家庭でも作っていました。今では市場で買ったり、パデークなしにナンプラー(ナンプラー)だけで済ませる家庭も増えています。

子どもたちは小さいころからお手伝いをします。日本では「包丁を持たせるのは危ない!」となるところ、「できることは小さいときからやる」のが普通。カボチャの皮むきや朝早く起きてご飯を蒸す(眠い眠いと言いながら)のは子どもの仕事なのです。

表紙の写真 サッカーシューズとフェアなプレー

3km離れた村の小学校から、お父さんが運転するトラクターに乗り込んで選手たちがやってきました。ユニフォームを揃えて遠征してきた男の子たちは、ちょっと興奮している様子。おがくずが詰まった袋を逆さにし、サッカーコートに水を引いて皆で試合の準備をします。このチームは全員が靴を履き、なかにはスパイク付のサッカーシューズで臨んだ子もいました。対戦校の子もたちのほとんどが裸足。怪我をしては危ないからと、校長先生に靴を脱ぐように言われ、全員裸足で試合が始まりました。急きょ授業は中断。学校中が炎天下で歓声をあげて観戦しました。

特定非営利活動法人 ラオスのこどもの目的は、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択でき、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。教育が十分に普及していない地域のひとつラオスで活動し、ラオスと日本をはじめ子ども、人々の参加を通じて、だれもが成長の機会を得ることをめざします。

ラオスのこども通信 57号

2013年4月発行 編集人: 森 透

発行: Action with Lao Children / Deknolao

(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303

TEL/FAX 03-3755-1603

e-mail: deknolao@yahoo.co.jp

http://deknolao.org

都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分

郵便振替 00140-6-462494

これからの予定 2013年4月~12月

2013年も活動ミーティングを奇数月、勉強会を偶数月、それぞれ第2土曜日に開催します(一部異なる日もあります)。

<活動ミーティング>

現地報告、国内イベントの打ち合わせ、会の運営の意見交換などを行います。

5/11、7/20、11/9

<勉強会>

6/8、8/3、10/19、12/14

*各回とも内容は企画調整中です。日程が変更になる場合があります。内容や会場とあわせ、詳細はホームページでお知らせします。みなさんの参加お待ちしております

<ラオスのお正月 ピーマイ・パーティー2013>

4月21日(日)、ラオスの新年をお祝いするパーティーを開催します。詳細は別紙をご覧ください。

メコンのほとり食

ココナッツと挽肉入りのタケノコ炒め

【材料】4~5人前

- ・豚ひき肉 100g
- ・水煮竹の子 大きいのを2ヶ(約300g)
- ・ほうれん草 1束
- ・ナンプラー 大さじ2
- ・ココナッツミルク 1カップ
- ・サラダ油 大さじ3
- ・レッドカレーのペースト 大さじ1

【作り方】

- ①煮竹の子は2つに割り、軽く湯がく。(フォークで割くと千切り状になり、味がしみやすい)
- ②ほうれん草はやわらかめに茹でて、フードプロセッサーでペーストにする。
- ③油をフライパンで熱し、カレーペーストを炒める。(焦がさないように)
- ④豚ひき肉を加えて炒める。
- ⑤竹の子を加えて炒める。
- ⑥ココナッツミルクを加える。
- ⑦ほうれん草のペーストを加え、ナンプラーで味をととのえる。



竹の子はフォークで割く

レモングラス、ホームデン(赤小玉ねぎ)、ガラंगा(カー)が用意できれば、ペーストにして③に加えると本格的です。または、玉ねぎ(ペーストまたはみじん切り)を③に加えると風味が増します。